

古き佳き独逸の銘器、いぶし銀の輝き

1909年製ブリュートナー・ピアノ

～ブーニンをコンクール優勝に導いたピアノ～

演奏：筒井 一貴



L. v. ベートーヴェン (1770-1827)

ピアノソナタ 第8番 op.13

ハ短調「悲愴」

ピアノソナタ 第17番 op.31-2

ニ短調 (テンペスト)

F. ショパン (1810-1849)

2つのノクターン op.55

(ノクターン 第15番、第16番)

3つのワルツ op.64

(第6番 (子犬のワルツ)、第7番、第8番)

3つのマズルカ op.50

2016年 **12月4日(日)** **14:00**開演

4000円 (全席自由、50名 要予約)

世田谷、松本記念音楽迎賓館

世田谷区岡本2丁目32-15 (03-3709-5951)

◎東急田園都市線「二子玉川駅」よりバス(20分/12:41または13:00)

東急コーチ玉31 成育医療センター行、または玉32 美術館行
停留所「もみじが丘」または「岡本三丁目」下車 5分程度

◎小田急線「成城学園前駅」よりバス(15分/12:42または12:56)

東急バス都立01 都立大学駅北口行
停留所「岡本三丁目」下車 5分程度

共催：松本記念音楽迎賓館

予約・問合せ：03-3709-5951 (松本記念音楽迎賓館)

bergheil69@me.com (筒井)

<http://bergheil.air-nifty.com/blog/> (ブログ：筒井一貴 つれづれ草紙)

古き佳き独逸の銘器、いぶし銀の輝き 1909年製ブリュートナー・ピアノ

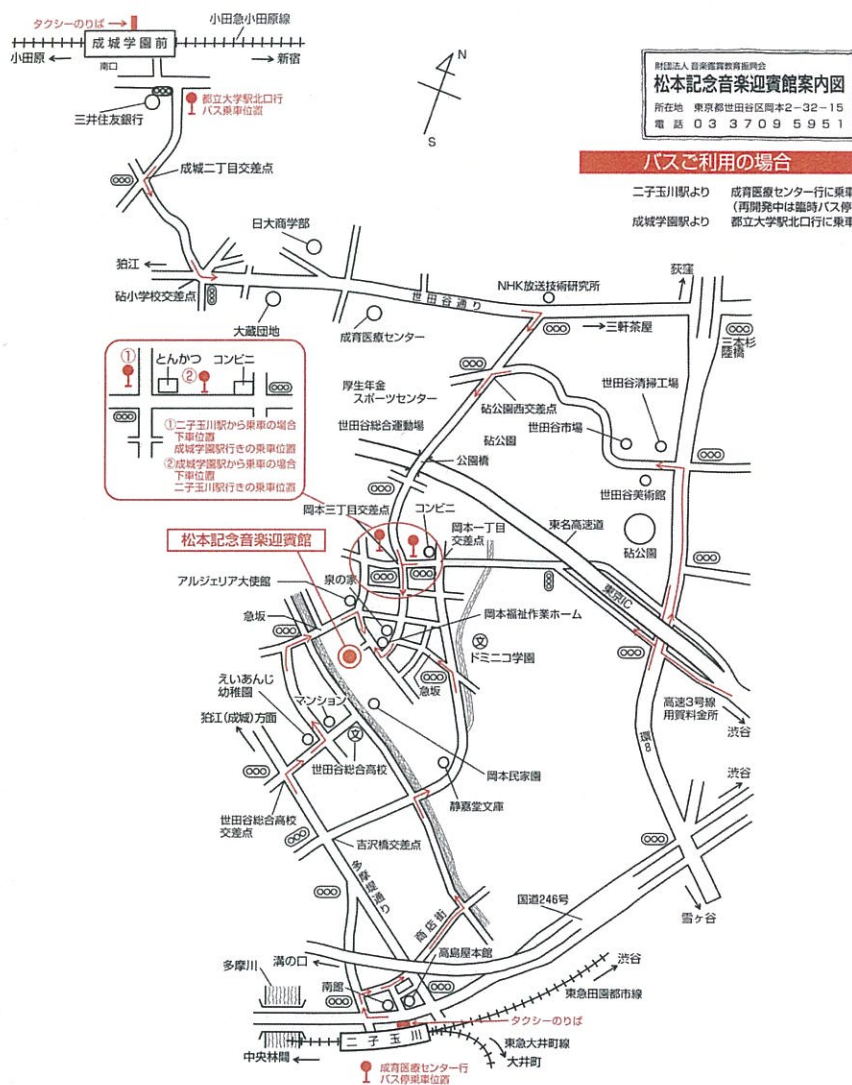
ブーニンをロン＝ティボーコンクール(1983)
そしてショパンコンクール(1985) 優勝に導いたピアノ

今回、縁あってまことに由緒正しきピアノを演奏会で使う光栄にあずかりました。

かの1985年ショパンコンクールの覇者：ブーニンが練習に使っていた正真正銘の実物、1909年製のブリュートナーです。

ライプツィヒのピアノメーカー：ブリュートナーによる1909年製造のこのピアノは、かつてのドイツ皇帝ヴィルヘルム2世が従妹のアレキサンドラ皇后（ロシア最後の皇帝ニコライ2世の妻）に贈ったものと言われており、ロシア革命勃発と共にある女官の手に渡り、その後1970年代末に彼女が亡くなるまで“聖なる遺品”として大切に保管されていました。

1982年、このピアノが闇で売りに出された際、N・パステルナーク女史（ノーベル文学賞のV・パステルナークの息子の嫁：ブーニンの名付け親）の援助の下、ブーニンの手に入りました。ブーニンはこのピアノで練習を重ね、パリのロン＝ティボーコンクール（1983年）とワルシャワのショパンコンクール（1985年）の2つを制覇しました。



松本記念音楽迎賓館ファンクラブ (MGF-club)

当館で開催されるイベント（演奏会・庭園開放など）を
メールまたは Fax にてご案内いたします（登録無料）

<http://ongakugeihinkan.jp/fanclub/index.html>